

総合知活用に基づく救急車利用課題の解決: Wicked problems解決に向けた新規アプローチ開発

九州大学 未来社会デザイン統括本部

「地域における救急車の適正利用」という複雑な因子が絡み合う複雑な社会課題に対し、多様な専門知と多様な主体の知を掛け合わせ、総合知の活用による解決を試みたものである。本取組は二段構えとし、約1年にわたる定期的な勉強会により専門知の観点から課題を多面的に分析・整理するフェーズ1と、一般市民や関係主体との対話を通じて知を重ねるフェーズ2を実施した。フェーズ2ではサイエンスカフェや公開シンポジウムを開催し、さらに福岡市と連携した救急車利用データの分析を行った。これらの成果はJSTサイエンスアゴラin福岡で発表し、グループ討議を通じて資源最適化とリソース運用に関する解決アイデアを創出した。本取組で確立した分析方法や運営、プロセスを方法化し、単一の学術知では解決できない複雑な社会課題に対応するマネジメントメソッドとして活用していく。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

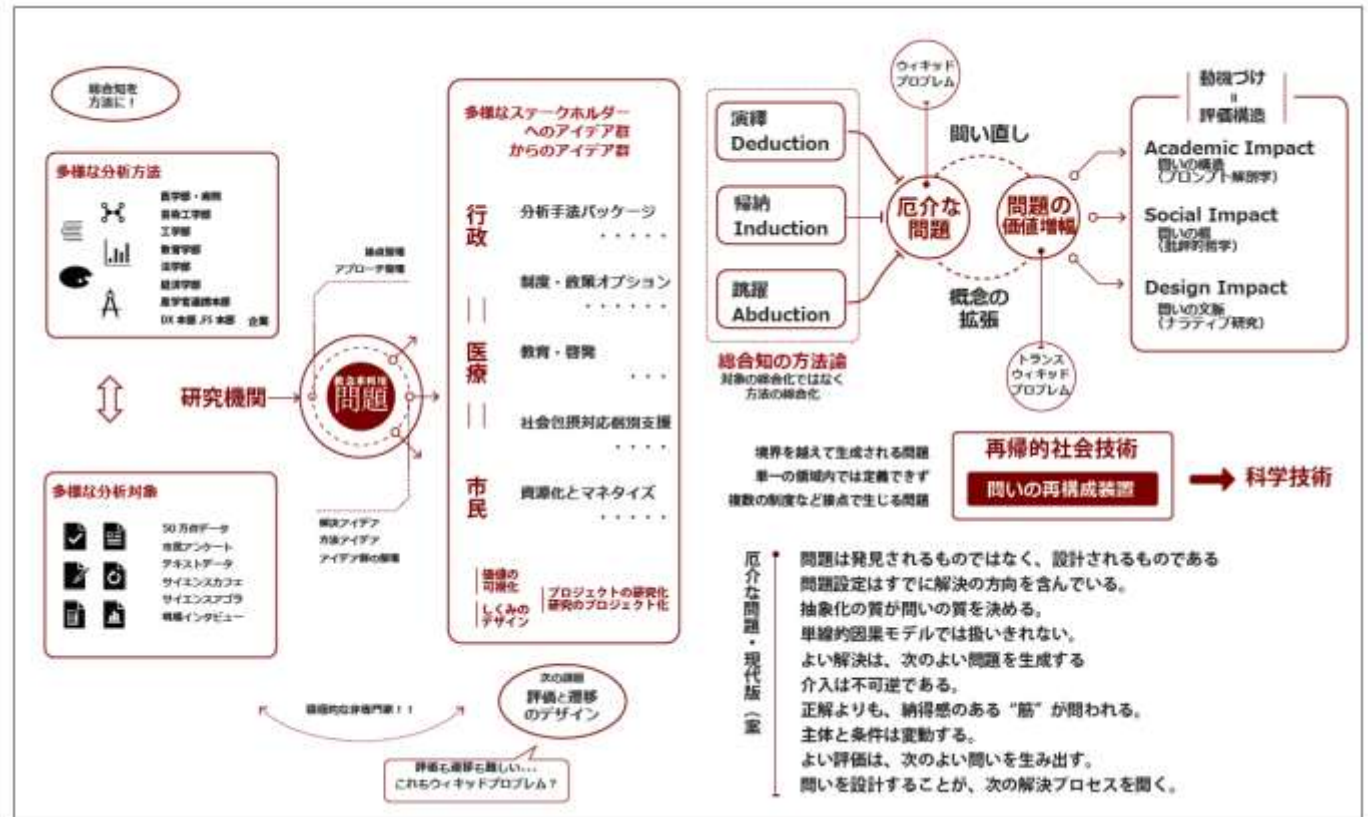
単一の学術知では解決できない複雑な社会課題に対し、総合知を用いて問題を構造的に解きほぐし、多様なステークホルダーが納得し満足できる解決策を導くことで、社会変革を牽引する明るい未来社会を目指す。

ビジョン達成の課題

単一の学術知では解決できない「厄介な問題」に対し、異なる専門知を持つ関係者が継続的に議論し、論点を整理した上で良質な問いに変換し、多様なステークホルダーの知をいかに取り込み、社会還元としての提言につなげるかが課題である。

「矩」を超えた場づくり / 得られた新たな価値

学内横断組織である未来社会デザイン統括本部を中核に、専門分野や立場を固定せず人が人を呼ぶ形で議論を重ね、専門家と市民が対話する場を構築した。これにより複雑な社会課題を多面的に解きほぐし、具体的な解決アイデアの創出へとつなげた。



フェーズ1. 「救急車利用問題」を「総合知」で多角的に見直す

「救急車利用の課題・問題を考える」勉強会

関連する専門知を学内から見出し、多角的に問題を分析。

- 1 他自治体の分析報告 医学部 福田先生
- 2 民間との連携可能性 福岡地域戦略推進協議会 中嶋様
- 3 救急医療の現状について 医学部 赤星先生
- 4 医療のゼロ価格効果についてのサーベイ 経済学部 浦川先生
- 5 福岡市との救急データ共有に向けて DX本部 中村先生
- 6 アンケート分析の方法 法学部 大賀先生

* 勉強会には工学部、大学病院、芸術工学、の研究者が常時議論に参加。

「総合知」による新たな気づきの掘り起こし

総務省データなどのオープンソースデータを、勉強会メンバーの多様な視点の下で議論。福岡市の特徴「高生存率 × 高市民参加 × 高効率運用」が浮き彫りになる結果に。

大学の授業の活用

芸術工学部・未来構想デザインコースの授業と連携し、学部学生が「救急車利用問題へのアプローチ」についてのアイデアを提案。

「救急隊員不足の改善法」「急性アル中対策」「動く保健室」「なぜ救急車を呼んでしまうのか調査」「救急車シミュレーションゲーム」 などなど。

一般市民や学生へのアンケートとその分析

芸術工学部の尾方と隈本が学生や一般の方を対象にアンケートを実施。「救急車の適正な利用料」「適正化に向けた取組」「救急車利用経験」「救急車を呼ぶべき状況」などについて聞き、状況を把握。

フェーズ2. 多様なステークホルダーで対話し、提言へ



サイエンスカフェを実施し、救命救急に関する話題提供や心肺蘇生の実習を交えつつ、救急車利用問題を双方向的に議論。



公開シンポジウムを実施し、フェーズ1の成果を報告。また、外部講師としてDMAT事務局次長の近藤先生をお招きし、ご講演いただくとともにパネルディスカッションを実施。



JSTと共催でサイエンスアゴラin福岡を実施し、多様な参加者の下、ラウンドテーブル形式で提言に向けたアイデアを議論。



救急車問題を考えるプロジェクト報告書(A5版 約150ページ)

